

新体制いよいよスタート!

時代を担う宗門をめざす



昨年4月9日に始まった親鸞聖人750回大遠忌法要が、本年1月16日に御満座を迎え、ついに円成となった。

ご満座の法要でご門主から「親鸞聖人750回大遠忌法要御満座を機縁として『新たな始まり』を期する消息」が發布された。

「ご消息」の中でご門主は、「本願念仏のご法義はいつの時代も変わることはないが、ご法義が活きてはたらく場である現実の社会は、移り変わる」と示された。そして「ご法義を伝え、広めるための宗門の組織も、社会の変化に応じて変わる必要があります。歴史を顧みて、受け継ぐべき伝統を確かめ、創造的な活動を育てていかなければなりません」と親読された。

いよいよ4月から宗門の新体制が始まる。混迷を極める現代社会の中で、人々の心に寄り添い、心のよりどころとなるお念仏のご法義を広めることが求められている。この度の改革で、時代を担う宗門となるよう、一人ひとりの取り組みが求められている。

鷺森テレホン

紙上法話

和歌山教区海南組安養寺

長谷川 義則



人生の羅針盤

私たちの生活の中には悲しいこともあり、あるいはうれしいこともございます。仏教では「人生は苦だ」と申しますが、思うようにいかないということも娑婆の世界でございます。そこで私のより所、そのより所を仏壇に求めます。仏壇は決して先祖をまつるものではありません。

最近の人は仏壇といいますと、ご先祖をまつっておるのだと考えてますが、仏壇は先祖ではありません。仏壇とは南無阿

弥陀仏なのです。

南無阿弥陀仏ということは、私たちが本当に生かしてくださることをいうのです。生きるより所を与え、死の帰する所を明かにするということが

人生の羅針盤

仏さまであります。

その仏さまを家の中心にご安置するということは、考えてみますと、主が定まるということなのです。

その主は私たちの家庭の中心であり、そして、私たちの生活をいろいろと方向づけてくださいます。

船に羅針盤がありますが、その羅針盤がなかったら方向は定まりません。仏壇という人生の羅針盤が私たちの生活の中にあるということは、まことにしあわせなことであります。困ったときは仏さまと相談しながら生活をする

ということが最も大切なことでもあります。仏壇は亡くなった人をまつるのではなくて、亡くなった方を偲ばせていただく

同時に、亡くなった人を活かす、そういう仏に私たちは今、遇わせていただくのであります。



仏壇は家庭の中心であるということを忘れてはなりません。

24時間いつでもどこからでも法話が聞けます

和歌山教区内テレホン法話開設寺院

鷺森テレホン法話

073-422-0243

おにさん

こころの電話(海南組 西光寺)
ヤングこころの電話(同上)
こころの電話(御坊組 専福寺)

TEL.073-487-2430
TEL.073-487-0404
TEL.0738-44-0874

鷺森テレホン法話(3分法話)
みなさまからのお電話お待ちしております。

東日本大震災被災地現地訪問
浄土真宗本願寺派

社会福祉推進協議会

2月27日から29日までの3日間、被災地の現状を知るために社会福祉推進協議会評議員と教務所職員計6人が宮城県を訪れました。その様子を報告してもらいます。

着陸態勢に入った飛行機の小さな窓から見た仙台湾の海は青く、1年前に大災害があったと想像できない。しかし仙台空港から一步外へと出ると、道路沿いに累々たる瓦礫や廃材が連なっている。

私たちは、仙台市の七北田川の河口にある専能寺に向かった。



専能寺は山門が流され、宗祖の銅像も笠が押し潰され痛々しい。本堂で前任職ご夫婦

銅像も笠が押し潰され痛々しい。本堂で前任職ご夫婦

から被災時の様子を聞いた。

「激しい地面の揺れによって境内の墓石の多くが倒れ、建物に亀裂が入った。他に被害はないか見回っていると、数機のヘリコプターが上空を旋回していました。おそらく避難勧告が放



送されていたのでしようが、そのヘリコプターの轟音で聞き取れませんでした。」その日、自坊にいたのは前坊守1人。門徒の方から促されて避難した数分後に津波が来たそうだ。80人のご門徒が波にさらわれ、もうすぐ一周忌。幸い避難することができた者、たまたま現地を離れていた者、生死の境は紙一重。

また、石巻市の称法寺を訪問した。

その後、仙台別院に設置

されている東北教区ボランティアセンターで毎日午後6時に



6時に
行われ
ている
ミーテ
ィング
に出席
した。
2日
目は、
仙台別

院が派遣しているボランティアに二班に分かれて参加2人が「お茶会」という傾聴ボランティアへ。4人はJA仙台の作業所で種子大豆の選別作業に参加した。

3日目、より厳しい被害



を受けた仙台市若林区荒浜と名取市閑上を視察。仙台平野は見渡す限り広い。その見渡す限り、基礎のコン

クリート以外何も残っていない。何万という家が波にのまれて消えた。荒涼たる景色に雪が舞う。

同じ小学校の体育館に避難したのに、1階フロアーに残った人、2階へ逃れた人の間で生死が分かれた。目の前で肉親や知人が波に飲まれていく。阿鼻叫喚地獄絵さながらの惨状だったという。

元の場所へ戻るか、高台に移住するか、住民の意見



はまとも
まらな
かった。
政府
の施策
は遅く、
復旧の
見込が
立たな
い地域

も多い。閑上中学校の正門の時計が2時46分で止まったままになり、机には14人の死を悼む文章が記載されている。こうした廃墟のまま放置されている校舎が、

いたるところに残っている。見れば見るほど、聞けば聞くほどに悲しみは深く現状は厳しい。



3月
12・13
日、一
周忌追
悼法要
が仙台
別院で
勤修さ
れた。
これか

らも支援の絆が、もつとむつと太く大きく強く広がることを願うほかない。
(伊那組光明寺 宇多光誠)

今回の訪問を通し、被災から1年が過ぎ、時間の経過とともに被災者の抱える問題も多様化しており、心のケアに対する支援も必要になってきている現状を確認した。
社推協和歌山支部では、今後も引き続き、支援活動に努めていく。

新たな始まり

体制決まる「宗派と本願寺」

宗門では4月から新体制がスタートした。これまで本山本願寺と宗派は業務を一体的に運営してきたが、今後はそれぞれが独自の議決機関と執行機関をもって運営されることになる。

この体制のもとでは、例えば、一般寺院に関係する諸手続きや教化団体関係の業務は宗派で、一方、大谷本願寺や帰敬式などは本山本願寺が取り扱うことになる。しかし、双方とも浄土真宗本願寺派であることはこれまでと変わりはなく、両者がそれぞれ独自性を保ちながら、相互に協力、関係し合って効率的かつ活力ある運営をめざす。

また、この制度改革に伴

い、門信徒会運動と同朋運動が一本化され、二十六年間に渡って展開されてきた

基幹運動は、今後は「御同朋の社会をめざす運動」(略称実践運動)に名称が変更される。基幹運動のこれまでの成果と課題をふまえて、一層の広がりをもった宗門全体の運動となり、より浄土真宗のみ教えを社会に広め実践していくことをめざしている。

この運動推進のために宗派に「重点プロジェクト推進室」が設けられ、そのもとに中央委員会、各教区に教区委員会、各組に組委員会がそれぞれ設置されることになっているが、和歌山教区では、これまでの基幹

運動推進委員会の企画常任委員会で協議を行い、教区委員会の立ち上げを急ぐ。

なお、このたびの新体制発足にともなう、総局では趣旨の周知徹底をはかり、意見を聴取するため、各地での公聴会を実施する(時期は未定)。

新組長 教区会議員

大遠忌法要のため任期が5年に延長された組長並びに教区会議員が2012(平成24)年3月31日で任期満了となり、各組から新しい組長と教区会議員が下記の通り選出された。任期は2012(平成24)年4月1日から2016(平成28)年3月31日までの4年間となる。

組長

加茂組

和歌山組 島 和夫(西覚寺)

和歌山東組 吉田 隆英(正善寺)

和歌山西組 加藤 典彦(万福寺)

和歌山北組 北條 法聖(慶圓寺)

加茂組 荻野 行一(願称寺)

海南組 松本 教智(了賢寺)

海草組 中山 勝丸(安養寺)

伊那組 有沢 晃曉(極楽寺)

有賀組 三枝 正憲(円照寺)

有田南組 生田 俊示(称念寺)

有田北組 立森 秀芳(教念寺)

日高組 片桐 淨映(円行寺)

御坊組 湯川 逸紀(三宝寺)

紀南組 北條 一穂(妙道寺)

加茂組

(僧) 教念寺 児玉 眞英

(門) 浄満寺 藤田 眞嗣

海南組 (僧) 慶證寺 吉村 眞典

(門) 西法寺 宮本 勲

海草組 (僧) 報徳寺 長谷川義昭

(門) 蓮乗寺 樫尾 忠男

伊那組 (僧) 光明寺 宇多 光誠

(門) 教楽寺 大西 利夫

有賀組 (僧) 正善寺 志場 正敏

(門) 安楽寺 平畑 栄治

有田南組 (僧) 本勝寺 妻木 尚武

(門) 真楽寺 籠谷伸一郎

有田北組 (僧) 教蓮寺 菅原 昴

(門) 光源寺 富山 俊樹

日高組 (僧) 即生寺 藤本 使朗

(門) 長覚寺 小谷 勝男

御坊組 (僧) 安養寺 佐々木俊紀

(門) 円満寺 平井 健

紀南組 (僧) 正念寺 梶 信隆

(門) 光顔寺 山本 明治

和歌山組 (僧) 西光寺 釘貫 祐彰

(門) 西法寺 児玉 順彦

和歌山東組 (僧) 信楽寺 下間 信男

(門) 浄徳寺 津村 恒雄

和歌山西組 (僧) 正圓寺 藤下 寿了

(門) 正善寺 八尾 進

和歌山北組 (僧) 浄永寺 山本 法道

(門) 永正寺 杉山 好英

「御同朋の社会をめざす集い」開く

「差別・被差別からの解放」めざし

さらなる運動展開へ新たな第一歩

和歌山教区（林安明教務所長）では3月2日、鷺森別院本堂で「御同朋の社会をめざす集い」を開催、教区内をはじめ近畿の各教区

代表者・解放同盟関係者ら約百六十人が参加、これまでの運動の歩みを振り返るとともに今後さらに差別のない社会をめざして強力に

運動を進めていくことを誓い合った。

同教区基幹運動推進委員会が主催して「今こそ大切にしたい御同朋の歩み」をテーマに開かれた集いは、今日の「基幹運動」の前身となる「浄土真宗本願寺派同朋会」が昭和25年に設立、その前年に全国に先がけて「和歌山同朋会」が設立され、まさに

先駆的役割を担い、今年が設立以来、63年目を迎え、今年四月から運動体制が大きく変わる中、これまでの御同朋の道を切り開いた先人の足跡を改めて学び、新たな運動の始まりとすることをネライに開かれたもの。

まず、開会式では、僧侶と門信徒の代表者が平座に座り、正信偈六首引きを繰り読みし、大きな声で唱和した。

この後、布教使の南真琴師が記念の法話。これまでの差別事象を捉えながら、み教えを一つのよりどころとして歩ませていただくことが、一切平等の世界であることを強調した。

続いて龍谷大学の赤松徹真学長が「御同朋の社会をめざす私たちの歩み」と題し記念講演。これまでの運動の歴史を振り返りながら「御同朋の社会をめざす心意気とは何か」と前置きし「それは真宗の念仏者であるという原点は何かということ」を親鸞聖人のご生涯に学ばせていただくことである。そのことを一人ひとりが歩ませていただくことが今回の集いの大きなテーマであると思う」と話した。

最後の閉会式では「先人の意思を受け継いで部落差別をはじめとするあらゆる差別のない御同朋の社会をめざして努力する」と参加者一同で決意を表明し、集



いを終えた。

今回の集いで、今年4月から宗門体制が大きく変わる中、これまで使ってきた「基幹運動」という言葉は消えるが、「差別・被差別からの解放」をめざすべく運動を進めていくという基本姿勢は全く変わらないことを参加者一同が確認した。そうした意味では、集いはまさに真の同朋社会の実現に向けた新たな第一歩を踏み出したといえると同時に、全教区へ発信する新たな先駆けとなったといえるだろう。

仏壯連盟 今後の寺院における 組織教化活動について 研鑽を深める

寺院活性化の願いを込めて、僧侶と壮年会連盟の門信徒が一堂に会して研修会を開いた。講師として中央基幹運動推進相談員の宇野



哲哉師をお招きし、講題は「今後の寺院活動における組織教化活動を考える」親鸞聖人七百回大遠忌法

要を契機として進められてきた門信徒会運動は、一定の効果をあげつつも、現状ではかなりの温度差がある

のも事実である。現在寺院を取り巻く現実には厳しいものがあり、門信徒の教化と時代が求めるお寺への進化は緊急の課題と認識されている。その一つの手法としてそれぞれの寺院に「仏教

壮年会」を組織し、それを本山に登録することが提唱されている。現在の和歌山教区では、活発に壮年会活動をしている寺院が少なくないものの、中央に登録する動きはそれほど多くない。

研修会では「組仏壯」として活動している和歌山組と御坊組の活動状況が発表された。又、壮年会活動を始めるための方法なども紹介され、発表資料を参考に

して壮年会活動を立ち上げ、本山への登録まで持って行きたい、との声も聞かれて、有意義で活発な研修会となった。壮年会活動を開始するにあたってのご相談は教区担当者(小山)まで。

第3連区近畿ブロック 門徒推進員研修協議会

2月18日、19日、第3連区近畿ブロック門徒推進員研修協議会が当教区担当のもと鷺森別院を会場に開催され、近畿各教区より13



4人の門徒推進員が2日間に渡り研鑽を深めた。記念講演では、相愛大学人文学部教授で大阪教区豊島北組如来寺住職の釋徹宗師が「大遠忌と大震災」と題し、この度の

大遠忌法要と大震災の復興支援活動から見えてきた真宗者の宗教的帰属の確認と公共性、社会性について、古くから日常生活に息づく真宗文化を紹介した。そこにこれからの私たちの歩む道が見出されるのではなからうかと語った。

門総モデル事業 寺院活性化に取り組む

2月26日、和歌山市関戸の円明寺(雑賀義昭住職)で、門徒総代会モデル事業が開催された。各組総代会役員をはじめ担当の和歌山組の総代93人が参加した。

今回担当となった和歌山組総代会の実状や組内4ヶ寺の活動報告や心に残るつどいなどについて、パソコンや映像を駆使し、わかりやすく紹介された。

全体協議会では、これからの組や寺院活動の活性化について話し合いが持たれ、活発な意見交換が行われた。また、各組、各寺院の取り



組みについて、もっともっと広く紹介して欲しいとの要望があった。

今回開催に当って、内容の検討やレジメの作成、映

像の編集作業など、総代会メンバーが率先して行ったという。

各組連研修了者研修会

連研後の歩みについて
学びを深める

3月4日、鷺森別院で連研修了者研修会が開催され、各組の連研修了者22人と12人の門徒推進員がスタッフとして参加した。

中央連研講師の小滝信生師(備後教区)が「念仏者のあゆみとは」と題し、組連研での気づきをもとに一念仏申させていただく私が、自身の生き方としていかにあゆみを進めるべきかについて話された。

また、3人の門徒推進員が中央教修受講の喜びを参加者に伝えた。

その後、「組連研を修了して」と題し、各班毎に話し合いがもたれ、各班での意見をもとにパネルディスカッションがもたれた。

最後に講師が連研の学びを通し、自らの行動に繋げて欲しいと話した。

各組組連研について 活発な意見交換

3月13日、教区基推委主催の「連研のための研究会」が開催され、各組から組長並びに連研スタッフ、教区



門徒推進員ら48人が参加した。「和歌山教区組連研のめ

ざす方向」をテーマに、先ほど実施した各組連研現状調査(アンケート)の分析結果をもとに、これまで各組で取り組まれてきた門徒推進員養成連続研修会(連研)の成果と課題について、確認と点検を行った。

研究会では、アンケートを分析した連研中央講師の小滝信生師(備後教区)が和歌山教区の組連研の成果と課題について問題提起を行い、連研に関わるそれぞ

れの立場から意見が出され、今後の充実に向け、活発な協議が持たれた。

最後に小滝師から連研で取り組まれている話し合い法座は社会問題に関わる基幹運動の実践の現場であり、門徒育成だけに止まらず、僧侶育成の大切な場でもあるので、教区、組において、引き続き連研に取り組んで欲しいと要望が出された。教区では、今回明らかにした課題を検証し、今後の更なる推進に繋げて行く。

仏青・寺青 お寺の 魅力について研鑽

3月14日に鷺森別院で、教区仏教青年連盟と寺族青年連盟が合同で研修会を開催した。

数年前より「お寺って何?」というテーマを取り上げ、様々な視点から考察する研修会を開催してきたが、今回は相愛大学人文学部教授の釋徹宗先生をお招きし、「お寺の役割とは」という



視点から「お寺の魅力を考える」と題してご講義いただいた。

「公共性」という言葉をキーワードにしていくつかの事例を紹介され、お寺の持つ可能性、魅力を考えるきっかけとなった。参加者は25人。

布教団 歎異抄について 連続法座を開催

教区布教団では、今年度、歎異抄について研鑽を深めることとなり、講師に教区布教団員の海南組西光寺、住職蓮下義昭さんを迎え、「歎異抄に親しむ」と題し

お話を頂戴する。4月より年間12回、毎月第2水曜日の午後7時から9時まで鷺森別院で開催する。参加費は、僧侶は各回毎

1,000円、年間は10,000円。

一般の方、ご門徒、僧籍をお持ちでない寺族は無料となっておりますので、お気軽にご参加ください。

開催期日

- 2012(平成24)年
- ① 4月11日 ② 5月9日
- ③ 6月13日 ④ 7月11日
- ⑤ 8月8日 ⑥ 9月12日
- ⑦ 10月10日 ⑧ 11月14日
- ⑨ 12月12日
- 2013(平成25)年
- ⑩ 1月9日 ⑪ 2月13日
- ⑫ 3月13日

勤式講習会 4月から毎月第2土曜 正信偈を講習

今年度の勤式講習会は、主に正信偈・三帖和讃の読み方を学びます。講師は勤式振興会委員。

4月から12月まで毎月第2土曜日(変更あり)午後6時から8時まで、鷺森別院書院にて開催。4月は都合により28日に開催します。

門信徒のご参加もお待ちしております。

恵信尼さま顕彰・ 平和の日の集い 和歌山担当で4月25日 聞法会館で開催

今年度「第26回 恵信尼さま顕彰・平和の日の集い」が和歌山教区担当で本願寺聞法会館3階多目的ホールにて開催されます。

この集いは「第6回世界仏教婦人会大会」において「恵信尼さまの日(毎年4月25日)」を「平和の日」とする決議に基づき毎年、開催しています。

親鸞聖人の御同朋・御同行のお心のもとに歩まれた恵信尼さまの念仏者としてのご生涯に学びながら、併せて平和問題・環境問題について学びを深めていく集いです。講師には前アソカ診療所所長・医学博士である佐々木恵雲師。「いのちみつめて」と題し講演いただきます。

辞令伝達式

今年も例年通り、鷺森別院二尊会の門徒総代会参拝奨励日に併せ、責任役員・門徒総代会辞令伝達式を開催します。昨年(2011)の10月から今年(2012)の3月末日までに願記申請され、就任された方を対象として、和歌山教区教務所長が辞令を交付します。期日は、5月15日(火)、詳細なご案内は後日、対象寺院様宛送付します。

各教化団体総会・研修会

研修会

5月13日から16日まで鷺森別院で二尊会が勤修されるのに併せ、参拝を兼ね各教化団体が総会並びに研修会を開催します。日程は左記の通り。

- 5月13日 仏壯連盟
- 14日 寺婦連盟
- 15日 門徒総代会
- 16日 仏婦連盟

詳細は、後日各団体からご案内します。

****教区だより****

(4月~7月)

2012年4月

- 5日 仏壮理事会
- 11日 布教団連続法座
- 13日 寺婦三役会
- 13日 仏婦役員会
- 18日 仏婦総連盟総会(～19日・本山)
- 19日 門推協理事会
- 20日 実践運動準備委員会
- 23日 門総新旧委員会
- 23日 仏婦新旧委員会
- 25日 仏婦恵信尼さま平和の日の集い(京都)

- 26日 寺婦役員会・委員会
- 27日 布教団役員会
- 28日 勤式講習会

5月

- 9日 布教団連続法座
- 12日 勤式講習会
- 13日 仏壯総会・研修会
- 14日 寺婦総会・研修会
- 15日 門総総会・研修会
- 16日 仏婦総会・研修

6月

- 9日 勤式講習会
- 13日 布教団連続法座
- 16日 近畿ブロック保育連盟補任式(京都)

7月

- 9日 平和を希う念仏者の集い
- 11日 布教団連続法座
- 14日 勤式講習会
- 28日 全国真宗青年の集い(～29日)
- 30日 児童念仏奉仕団(～31日)

****別院だより****

(4月~7月)

鷺森別院

【別院こども会】

- 毎月第4土曜 午前10時～12時
- 開催日 4月28日
- 5月26日
- 6月23日

【常例法座】

- 毎月15・16日 午後1時30分より
- 4月 植木政隆 師(大阪教区)
- 6月 黒田哲夫 師(東海教区)
- 7月 岩尾秀紀 師(宮崎教区)

【二尊会】

- 5月13日～16日 午後1時30分より
- 中山知見 師(山口教区)

【降誕会】

- 5月20日 午前10時より
- 高橋格昭 師(鷺森別院輪番)

【総永代経】

- 6月17日 午後1時30分より
- 黒田哲夫 師(東海教区)

日高別院

【常例法座】

- 4月20日 午後1時30分より
- 幡多哲也 師(兵庫教区)

【降誕会・花まつり・湯川忌】

- 5月13日 午後1時30分より

【永代経】

- 6月20日
- 黒田哲夫 師(東海教区)

新所長・輪番着任

宗派並びに本山の新体制の実動に伴い、4月1日付けで人事があり、前法要庶務部の高橋格昭部長が新教務所長・輪番として着任した。

また、この4月から日高別院の輪番は、鷺森別院輪番が兼務することになった。

なお、日高別院の伊藤道雄前輪番は日野誕生院主管となった。

得度

楠山 龍 有田北組 浄満寺

教師

太田正史 和歌山東組 玄通寺

逝去

田口 博 有田北組 西方寺

前任職 平成23年12月6日

鈴木妙子 日高組 善宗寺

前坊守 平成24年1月18日

山本妙子 和歌山北組 浄永寺

前坊守 平成24年2月23日

林富美代 有田南組 教専寺

前坊守 平成24年3月4日

ご生前のご活躍ご尽力に感謝申しあげ、謹んで敬弔の意を表します。